

東九州自動車道開通1年後のストック効果

九州地方整備局 道路計画第二課

1. はじめに

東九州自動車道は、福岡県北九州市を起点とし、大分県・宮崎県・鹿児島県を結ぶ計画延長436kmの高速自動車国道である。

平成元年に日出JCT～別府IC間が初めて開通し、平成28年4月24日に椎田南IC～豊前IC間が約27年の年月を経て開通したことで、北九州～宮崎間がつながることができた。

東九州自動車道開通1年が経ち、企業立地や物流、観光など沿線にて具体的に発現しはじめている開通効果について報告する。

2. 九州の高速ネットワーク

九州の高速道路は、1979年に植木～熊本間が九州で初めて開通し、1973年には、関門橋が開通し九州と東京・大阪などの大都市圏が高速道路ネットワークでつながった。その後九州縦貫自動車道、九州横断自動車道長崎・大分線が完成し、西九州自動車道・南九州西回り自動車道・東九州自動車道などの整備が引き続き進められている。

3. 地域経済を支える企業が進出

東九州沿線の市町村では、東九州道の延伸に伴って、平成21年から平成27年までに約670企業が進出している。それに伴い約1.2万人の雇用が創出され約5,100億円の新規投資が行われ地域経済への効果も現われている。

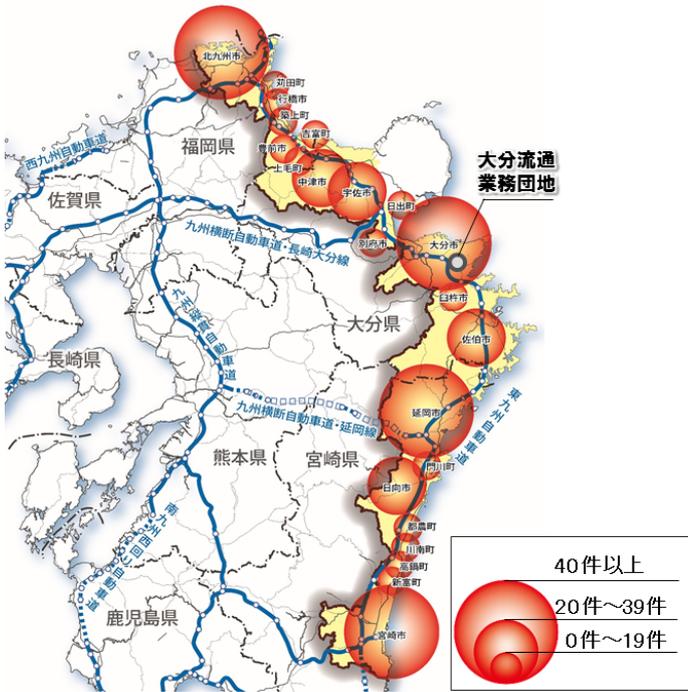
これは、物流が改善されることへの期待感が背景にあると考えられる。

もともと九州は、人材や土地の確保、立地条件などの面でポテンシャルがあり、インフラ整備により、物流の課題を解決することで、企業にとってはより魅力ある場所となりつつある。

■沿線市町の企業立地・増設件数の推移

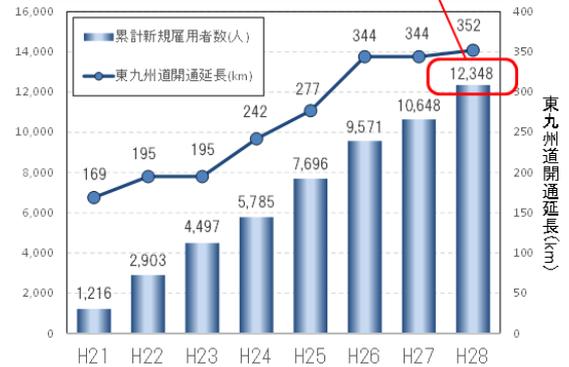


■H21年以降の企業立地・増設件数



■新規雇用者数の推移

H21年から約1.2万人の雇用を創出



H21年から約5,100億円の新規投資



4. 物流輸送に変化

北九州市～宮崎間の所要時間が約65分短縮し、物流においては時間短縮や定時性が確保されたことから、大型車交通量が約1.2倍に増加した。また、大分県と宮崎県の陸上アクセス向上により東九州道を利用したトラック輸送と海上輸送を組み合わせによる新たな物流輸送ルートが構築されカーフェリーの利用台数は約10%増加した。また、トラックドライバーの負担軽減が課題となっている昨今、東九州道とカーフェリーによる新たな輸送ルートが構築できたことも効果の一つである。

北九州市～宮崎市間の
陸上アクセスの向上



それに伴い、トラックドライバーの拘束時間が年間約27万時間削減され、過労運転撲滅に貢献するもとの考える。

時間短縮効果
定時性の確保により 大型車交通量が増加!



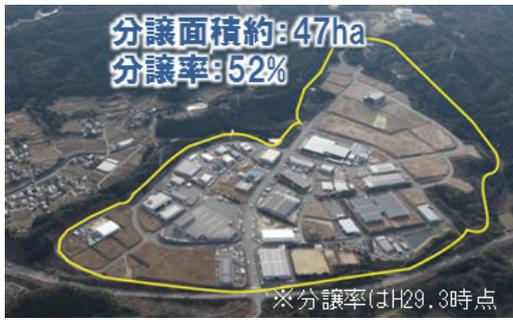
資料 H28.1～3月、H29.1～3月の日平均交通量



大分の物流事業者①の声

東九州道の開通で輸送時間が短縮し、定時性が向上しました。また、東九州道を利用し、輸送回数が前に比べ約1.2倍に増えています。

ヒアリング調査H29.1

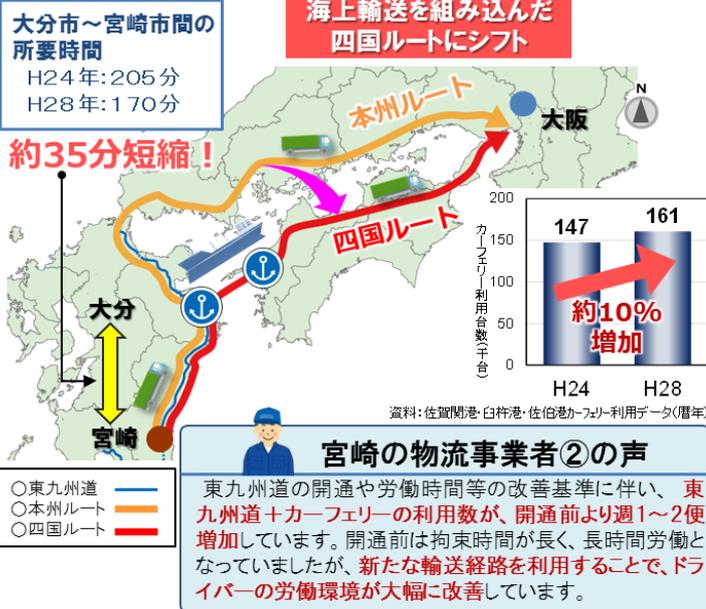


○本州ルート（東九州道+山陽道）

全輸送時間 11.5時間



■東九州道とカーフェリーによる新たな輸送ルートを構築



○四国ルート（東九州道+カーフェリー）

全輸送時間 10.5時間

拘束時間 2.5時間減少



※「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(H27.9より改正)により
・フェリー乗船時間は「休憩時間」として取扱われます。
・トラック運転者は4時間以内又は4時間経過直後に運転を中断して30分以上の休憩を確保することが定められています。

「東九州道利用のトラック輸送」と「海上輸送」の組合せにより
ドライバーの拘束時間を年間約27万時間削減
トラックドライバーの労働環境を改善
(過労運転撲滅に貢献)

ヒアリング調査 H28.11
休憩時間 = 161,000台^{※1} × 68%^{※2} × 2.5時間^{※3} = 273,700時間

5. 観光地が身近に

都市間の所要時間が短縮し、名勝観光地が身近になったことで、沿線観光地の中津市 名勝耶馬溪「青の洞門」の入込客数が約1.6倍に増加した。今後、沿線観光地への観光客増加が期待される。

■北九州市～大分市間の所要時間の変化



■名勝耶馬溪「青の洞門」の入込客数

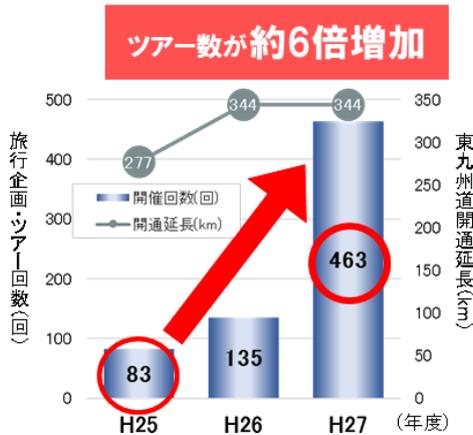


6. インバウンド観光に新たな活路

東九州道を活用した外国人向けツアー数が平成27年度に463回と平成25年度の約6倍とツアー数が増加している。

また、北九州市から別府・大分方面へのアクセスが向上したことで新たな観光周遊ルートが構築され、インバウンド観光に新たな活路が見られる。

■東九州道を活用した外国人向けツアー開催数が急増！



■新たなインバウンド観光周遊ルートが構築



7. 医師の確保が可能

東九州道開通に伴い、宮崎市から延岡市への通勤時間が約30分短縮したことにより、延岡市県立病院の医師の確保が可能となった。特に9年間休診により不定期だった眼科においては、定期診察が可能になったことにより受診者数診察再開前の約6倍の受診者数となり、地域医療への効果も現われている。

■宮崎県北地域への通勤圏拡大

通勤時間が約30分短縮



■宮崎県立延岡病院の医師数の推移

医師不足の解消で診療が再開

- 消化器内科の診察再開(H26年～)
- 眼科の診察再開(H27年～)
- 呼吸器外科の新設(H28年～)

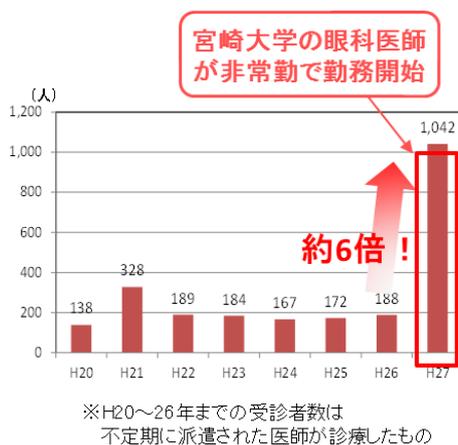
診療科	H17	H18	H19	H20	H21～H25	H26	H27	H28
消化器内科	3名	2名	2名	1名	0名 5年間休診	2名	2名	2名
眼科	1名	0名 9年間休診					1名	1名
呼吸器外科					0名 H28年新設			1名

都農～高鍋 H24.12開通
日向～都農 H26.3開通

ヒアリング調査 H28.9

■眼科の受診者数

H26年に比べ受診者数が
約6倍に増加



8. 食の賑わい拠点が生

東九州道整備による地域へのアクセス向上に伴い、無料区間の「強み」を生かし、大分県佐伯市と宮崎県延岡市が県境を越えて「食」をテーマにして、地域連携を図る新たな体制づくりがはじまった。地元ブランド食材を活かした施設のオープンや地域イベントを開催するなど、食のブランド化やプロモーション等をすすめ、地域の成長産業を強化し自立したまちづくりに取り組んでいる。

また、昨年4月の椎田南IC～豊前ICの開通に合わせ漁協直売施設がオープンし、オープン10ヶ月で来館者数が10万人を突破するなど、食の賑わい拠点が誕生した。

■ブランド食材を活かした地域イベント

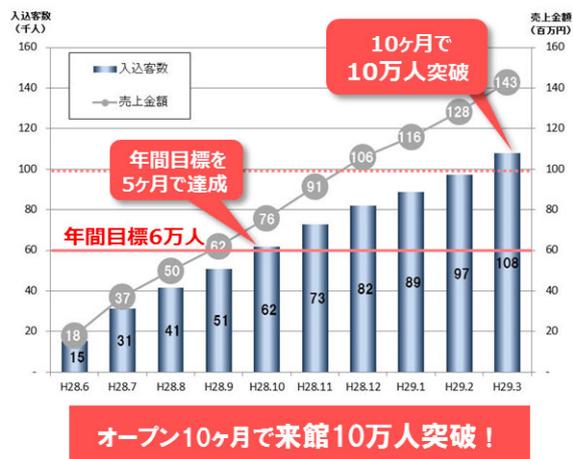


■福岡県豊前市に水産振興施設「うみてらす豊前」が新規オープン

椎田南～豊前ICの開通に合せグランドオープン



◎うみてらす豊前の入込客数と売上の推移



9. おわりに

今回、東九州自動車道整備により北九州市から宮崎市までが繋がることができ、様々な効果が発現しているところであるが、東九州自動車道が今後、鹿児島県まで整備が進み、現在九州内で整備が進められている他の高規格幹線道路が完成し、九州内の高速ネットワークが繋がることでより一層の効果が発現するものと考えられる。